

P22-03 術後再発気胸に関する検討(気胸1,第25回日本呼吸器外科学会総会)

著者	金井 義彦, 遠藤 哲哉, 手塚 康裕, 大谷 真一, 山本 真一, 手塚 憲志, 佐藤 幸夫, 長谷川 剛, 遠藤 俊輔, 蘇原 泰則
雑誌名	日本呼吸器外科学会雑誌
巻	22
号	3
ページ	502
発行年	2008-04-18
権利	日本呼吸器外科学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00134211

P22-03 術後再発気胸に関する検討

¹自治医科大学医学部外科学講座呼吸器外科部門, ²自治医科大学さいたま医療センター呼吸器外科

金井義彦¹, 遠藤哲哉¹, 手塚康裕¹, 大谷真一¹, 山本真一¹,
手塚憲志¹, 佐藤幸夫, 長谷川剛¹, 遠藤俊輔², 蘇原泰則¹

【目的と方法】当科にて2002年1月～2006年12月までに入院治療を施行した術後再発気胸症例を調査し, よりよい気胸の治療に関して検討する。【結果】対象となった症例はのべ21症例(男性16, 女性5)で, うち3症例は重複していた。再発部位は右10例, 左10例, 両側同時が1例だった。年齢は平均27.5歳(16～72歳), 喫煙者は11名でBrinkman indexは平均258.5だった。初回手術後から再発までの期間は平均20.9か月(1～112か月)で, 初回手術の術式は胸腔鏡下ブラ切除術が17例, 開胸ブラ切除術が1例だった。再発後の治療に関しては, 再手術施行症例が13例, 非手術症例が8例だった。再手術施行症例に関して, 気胸再発の原因を検討したところ, staple line近傍よりのブラ再発が7例, 新生ブラが5例, その両方と判断したのが1例だった。再手術の術式は胸腔鏡下ブラ切除術(臓側胸膜補強なし)が6例, 胸腔鏡下ブラ切除術(臓側胸膜補強あり)が4例, 胸腔鏡下胸膜癒着術が1例だった。再手術施行症例では, 術後再発は認めていない。【結論】現在自然気胸の術式としては胸腔鏡下ブラ切除術が一般的となってきているが, staple line近傍よりのブラ再発は少なからず認めており, 術式に関してはブラ切除にこだわることなく, 症例ごとに検討する必要があると思われた。